



炭鉱があったから、今の自分がある。

『住民の顔が見える広報』を目指し、地域おこし協力隊が
まちに飛び出て市民の皆さんをクローズアップ!!

第4回目は元炭鉱マンの三上秀雄さん。
かつてのあかびらを支えていた炭鉱も、
その歴史に幕を下ろして今年で20年が経った。
炭鉱とともに生きた三上さんが、次の世代に炭鉱の
歴史を繋いでいく。

赤平コミュニティガイドクラブTANTan代表

三上 秀雄 さん

昭和25年生まれ。住友赤平高等鉱業学校を卒業後、住友赤平炭鉱に就職。採炭員や救護隊員等に従事し、閉山のそのときを見届けた。現在は今年で4回目を迎えるTANTanまつりの準備に大忙しの毎日。



閉山後、TANTanを
設立したきっかけは。
平成15年に赤平市で国際鉱山
ヒストリー会議が開かれました。
その会議を前に、赤平にある
炭鉱資料を一度整理しようと動
き出したことがきっかけです。
でも本音を言えば、最初は、「今さ
ら炭鉱なんて…」と少しだけ冷
やかな気持ちで見えていました。
高校のときからずっと見てき
た立坑や炭鉱の機材は、自分の

閉山後、TANTanを
設立したきっかけは。

辛いことや悲しいこともたく
さんありましたが、それでも思
い出すのは楽しかったことが多
いですね。仕事終わりに同僚と
ホルモンを食べたり、家族ぐる
みでよく出かけたりました。
常に命がけて仕事をしていた
ので、休みの日も全力で遊ぶん
です。その分、遊び過ぎて月曜日
に出勤したくなくなることもし
ばしばでした(笑)。勤務中は、
チームで作業を行うため、安全
配慮には特に気を配っていまし
た。大きな事故も無く、無事に一
日が終わってお風呂に入った
ときが、一番ホッとする時間で
したね。

炭鉱で働いて
いたころの思い出は。

だんだんと炭鉱のことを知ら
ない世代が増えてきて、炭鉱(や
ま)は死んだという人もいるか
もしれません。ですが、「YAZ
+PCC」としての様々な活動や
イベントを通して、炭鉱の歴史
が人々の間で語り継がれている
限り、決して炭鉱は死なないと
思っています。なので、炭鉱の歴
史を全く知らない人にも、石炭
は当時の炭鉱マンにとって、血
と汗と涙の塊だったということ
を、一人でも多くの人に伝えて
いくことができればいいなと
思っています。

TANTan活動時に
心掛けていることは。

なかで当たり前の存在になっ
たので、遺産と言われる価値観
が分らなかつたんです。でも、活
動を通して、たくさんの方が赤
平の炭鉱に興味を持ってしてくれ
ていることを実感しました。それ
からは、実際に炭鉱で働き、経験
した自分にしか話せないことが
あるのではないかという気持ち
が湧いてきて、誇りを持って活
動するようになりましたね。

炭鉱で働いて
いたころの思い出は。

笑顔!
編集後記
地域おこし協力隊 まちの情報発信部門
愛知県出身 野口 暢子

あかびらで過ごした初めての夏。
焼き肉をしたり、盆踊りを楽しん
だり。まだまだやりたいことがい
っぱいあるのに、北海道の夏、
短すぎます!そして、食材の美
味しさに改めて実感した夏で
した。「とうきび」最高でした★

現在、月に2度、立坑と炭鉱の機材を展示した自走榨工場のガイドを行っている三上さん。働いていたころの得意や苦労話など、参加者にわかりやすく説明してくれます。